



宇和島城通信

7

2014.3



伊達博物館がある御殿町一帯はその名の通り、江戸時代、藩主の居宅や役所が置かれた宇和島藩の中枢『御浜御殿』^{おはまごてん}があった場所です。今はすっかり市街地化され、その名残は博物館前にある偕楽園や天赦園でみるばかりです。

今年の1月にこの一角で個人住宅建設のため発掘調査を実施したところ、良い意味で想定外の成果が出ましたので、今回はそのお話しをします。

【上の写真】1月の発掘調査で発見された馬屋の建物跡です。約140㎡の小さな現場でしたが、地表から50cmほど掘り下げたところから、非常に残りの良い状態で発見されました。

基礎石（礎石）の置き方も、1つの石を固めるように周りに石が置かれ、大変入念な仕事が見て取れます。このような置き方は宇和島城の発掘調査でも見つかったことがありません。

【左の写真】1月25日に開催された現地説明会の様子です。城下での発掘調査現場の説明会は、2010年の追手門跡以来4年ぶり、2回目の開催となりました。新聞等にも大きく取り上げられたこともあり、100名ほどの市民の方が来場され、大変盛況でした。

初確認となった御浜御殿の建物跡

今まで御浜御殿跡での発掘調査は数か所で実施しましたが、御殿と関わりがあるようなものは確認できたことはありませんでした。今回が初めての確認事例となりました。

◆ 御浜御殿について

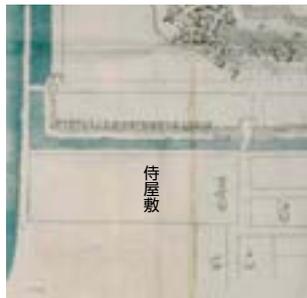
神田川の元の流れは、伊達家に残る史料から御浜御殿周辺で海に流れ込んでいたものと考えられます。現在の流れは戸田勝隆の頃（1587～94年）に付け替えられ、その河口部分の埋立地は藤堂高虎の治世には侍屋敷となっていました。

愛媛県歴史文化博物館の井上淳学芸員の研究では、寛永4（1627）年作成の公儀隠密見取図にある「侍屋敷」、承応3（1654）年頃作成の宇和島城下絵図にみられる長方形の「御屋敷」は藤堂高虎の家臣で宇和島城代であった佐伯惟定（権之助/豊後）の屋敷であり、伊達家入部の後、寛文10（1670）年～延宝5（1677）年までの拡張工事により、凸字型の御殿となったことが明らかとなりました。2代藩主宗利による御殿造営ののちは藩主居館として使用され、文政8（1825）年には7代宗紀の隠居所（天赦園）が造営されました。

今回の調査地は御浜御殿の東端のほぼ中央部に位置しています。御殿東側は北側の豊後橋・搦手門・上り立ち門を通して城内に向かう御殿の正面に相当します。建物配置は東北角に長屋、北寄りに御門（正門）、南寄りに御庭御門、南東角に千鳥門が作られていました。



■お城下マップ
(安政文久頃(1850～60年) 絵図整合図)



■御浜御殿の移り変わり



左>寛永4(1627)年絵図 伊予史談会蔵
中>承応3(1654)年絵図 伊予史談会蔵
右>元禄16(1703)年絵図(公財)宇和島伊達文化保存会蔵

◆ 発掘調査で確認された遺構について

【馬屋跡】礎石14基を確認。柱の礎石配置は東西3間以上（6m以上）、南北2間半（5m）。

●三浦正幸教授の評価（広島大学大学院文学研究科教授・工学博士/宇和島城保存整備検討委員会委員）

- ・江戸時代のものとしては、非常に丁寧な礎石の据え付けで、馬屋は高級建築のため、不自然ではない。
- ・側柱（がわばしら）筋に2間分の柱間がある→18世紀中葉以降のもの。
- ・西側の1間の狭い幅の部屋は馬小屋。
- ・東の6畳間+4畳間は、馬の番人の部屋ではないか。
- ・6畳間の北側中央に柱が無いことから、縁側になる可能性があり、北側が表と推定できる。



【土塀跡】南北方向に延び、幅約60cm（2尺）、長さ4mを確認しました。南側は抜き取られており不明ですが、北側は調査区外に延びているものと思われます。なお、聞き取りによると50年ほど前まで道を挟んだ南側に土塀が残っていたそうです。

◆ 絵図・文献との比較検証

現在御殿の建物配置がわかる絵図は、元禄期（17世紀末）の城下絵図屏風、延享4（1747）年浜之御屋敷御着城絵図、文政8（1825）年隠居所新築図があります。当該地付近は、屏風絵図では蔵、延享絵図では蔵と腰掛が見られ、18世紀中ごろまでは蔵があったことがわかりました。文政絵図では何らかの施設を示す表現は確認できますが詳細はわかりませんでした。その他の文献資料

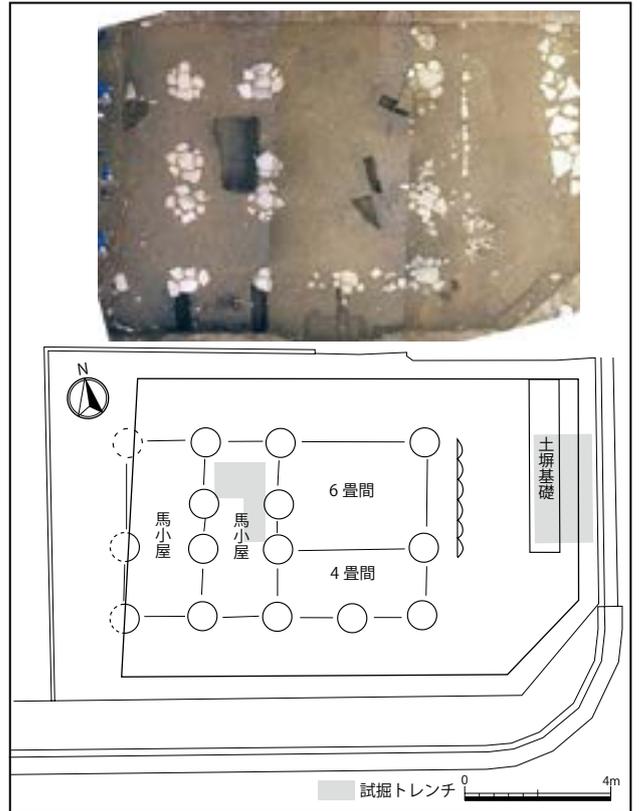


■宇和島城下絵図屏風 部分
元禄6~8 (1693~95)年頃(伊達博物館蔵)

に御浜御殿の馬屋についての記録は現在のところ発見できていません。土堀は各時代の絵図に表現されており、おおむね絵図通りに出土しました。

◆出土遺物について

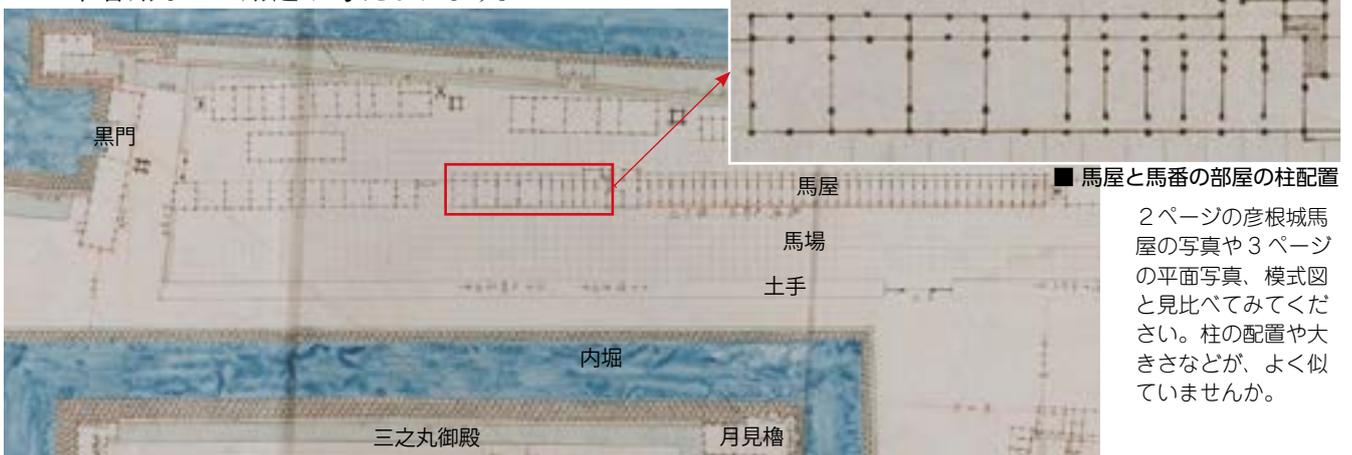
瓦ややきものなど、コンテナ7箱相当が出土しました。瓦では、伊達家家紋の九曜文軒丸瓦や宇和島城内でよく出土する三葉文軒平瓦が、やきものでは、「藩」や「御」といった文字が入った幕末ごろの碗が出土しています。いずれも藩の施設を示すもので、特注品と考えています。また墨書文字のはいった陶器碗も出土し、宇和島城の調査では見つかっていないものばかりでした。



■調査地の平面写真図(上)とその模式図(下)

◆御殿の馬屋について

宇和島城の御殿は三之丸御殿と御浜御殿の2か所が存在おり、それぞれに隣接して馬屋が作られていたことがわかっています。承応3(1654)年絵図では御浜御殿の南側、現在の佐伯町に馬屋が位置していました。この馬屋は延宝2(1674)年に火事で焼失し、屏風絵図や元禄16(1701)年絵図では佐伯町に馬屋は確認できません。三之丸御殿に隣接する総郭の御馬屋は、長さ90間の馬屋と土堀に囲まれた馬場からなる長大なものでした。屏風絵図ほか、各年代の絵図に「馬屋」もしくは「馬場」と記されています。承応絵図には見られないことから、佐伯町の馬屋が焼失した後、作られたものと考えられます。今回確認した馬屋はこれら2か所の馬屋以外に初めて確認されたものであり、御殿の区画内に作られた唯一の馬屋と言えそうです。馬屋の表面が御殿の正門に向いていることから、御殿の来客用などの用途が考えられます。



■正徳元(1711)年宇和島城絵図 三之丸東側 総郭御馬屋部分

■馬屋と馬番の部屋の柱配置

2ページの彦根城馬屋の写真や3ページの平面写真、模式図と見比べてみてください。柱の配置や大きさなどが、よく似ていませんか。

お城・お知らせ・瓦版

◆ 宇和島城保存整備事業からのお知らせ

昨年からの災害や環境整備工事のため、城山内でブルーシートばかりが目につき、ご心配、ご迷惑をかけていますが、平成27年度の伊達家入部400年祭を迎えるため、スピードアップして事業を進めていきます。

● 災害復旧工事（登城道）と環境整備工事（式部丸・代右衛門丸）

災害復旧工事については、年度内の完了を目指して現在作業が進んでいます。城山南側の式部丸・代右衛門丸の一带は、石垣の修理や復元工事が地盤対策などの問題から作業が遅れています。本年の秋ごろには一般公開できるよう作業を進めておりますので、もうしばらくお待ちください。



▲ 式部丸の作業の様子

● 本丸（天守裏）バイオトイレの設置

内外の来城者から要望の多かった本丸のトイレ整備ですが、天守裏にバイオトイレを設置します。試験運転後、GWから一般供用開始予定です。

● 登城口全体案内板のリニューアル

北登城口（桑折氏武家長屋門）と南登城口（上り立ち門）にある文字だけのモノクロ案内板を、もっと見やすい場所に移動して、地図や写真なども付いたフルカラーバージョンとなって間もなくリニューアルします。

● 宇和島城公式ガイドブック『探訪宇和島城』の刊行

宇和島城の公式ガイドブックを3月末に刊行します。天守や石垣、周辺の歴史遺産も含めて分かりやすくまとめたA4で20ページ程度の冊子となる予定です。歴史学習会などでご入り用の方は、文化課までご連絡ください。

◆ 宇和島城城山を守る会活動報告



本会も4年目を迎えました。現在は40名程度の会員で、月2回、日曜日の午前中に2時間程度の活動をしています。年会費500円、新規会員募集です。文化課担当者（廣瀬）までご連絡ください。もう少し詳しくお知りになりたい方はこちら→城山を守る会ブログ「大目付日記」(<http://uwajimajou-shiromori.blogspot.com>)



● 城山夜間開城『宵城花灯（よいじろはなあかり）』（7月23日）

4回目となった年に一度の夜間イベントです。おかげ様でうわじま牛鬼まつりの恒例イベントになってきました。今回は竹やペットボトルのオブジェを設置したり、天守前で迫力ある和太鼓の演奏をいただいたり、市内で一番見晴らしのよい城山ピアガーデン”開設したりして、来城いただいた400名余りの方に楽しんでいただきました。



● 城山一日探検（7月27~28日）

2回目となった天守お泊りイベントです。今回は、夜の星空観測に加えて、城山の自然も楽しく学んでもらおうと、日中には動植物の観察会も実施しました。重要文化財の天守に泊まったのイベントは宇和島城だけのイベントです。今年は8月に実施予定です。市広報誌で改めてご案内いたしますので、是非ご参加ください。



● 植物はてな会

定例活動とは別に、月1~2回、月曜日の午前中に城山の魅力の一つの植物をたくさんの方に親んでもらえるよう、市文化財保護審議会委員早見萬之助先生を講師に楽しく作業をしています。昨年から手作りのプレートをたくさん設置しています。



■ 問合せ先

教育委員会 文化課 文化財保護係 【Tel】 49-7033 【Fax】 22-5058 【Mail】 bunka@city.uwajima.lg.jp